

Ⅲ. 統計資料等を活用した県内景気動向等の分析調査

Ⅲ. 2. 宮城県調査

1. 本調査で用いられている用語の説明（追加説明分）

鉱工業生産指数(⇒宮城経済月報原文 Ⅱ.主な指標の動き1.生産)	
引用文献	<p>経済産業省:鉱工業指数の概要</p> <p>https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/gaiyo.html#cont2</p>
要約	<ul style="list-style-type: none"> ● 指数の意義 生産指数:鉱工業生産活動の全体的な水準の推移を示す ● 指数の計算方法 品目毎の一月当たりの生産量を、基準年=100 として指数化し、各品目別指数を基準年のそれぞれのウェイトで加重平均することにより、鉱工業全体や業種別・財別などの総合指数を求める算式。 ● 加重平均方法 生産指数の採用系列数は 408 品目 そのうち経済産業省所管品目は 364 品目 所管外品目は、44 品目(食料品・たばこ工業の品目や、医薬品、鋼船など) ウェイトは、生産指数は付加価値額ウェイト(計算式では基準時点でのウェイト) 経済センサス-活動調査(基幹統計調査)」等を基礎データとする

景気動向指数(⇒宮城経済月報原文 Ⅲ.宮城県経済動向指数)	
引用文献	<p>景気動向指数(内閣府):景気動向指数の利用の手引</p> <p>https://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/di3.html</p> <p>ASMBC日興証券</p> <p>https://www.smbcnikko.co.jp/terms/japan/ke/J0110.html</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ● 景気動向指数の要旨 景気全体の現状を知ったり、将来の動向を予測したりするときに使われる経済指標 ● 算出方法 産業、金融、労働など、経済に重要かつ景気に敏感な 30 項目の景気指標をもとに指数が算出 ● 算出の種類 コンポジット・インデックス(CI)とディフュージョン・インデックス(DI) ● 先行指数・一致指数・遅行指数 数ヵ月先の景気の動きを示す先行指数、 景気の状態を示す一致指数、 数ヵ月から半年程度遅れで反応する遅行指数
	<ul style="list-style-type: none"> ● コンポジット・インデックス(CI) CIは構成する指標の動きを合成することで景気変動の大きさやテンポ(量感)を表す。

	2015 年を 100 として前月の指数が大きく増えているようであれば景気回復が急ピッチであるなどと見ることができます。	
	<ul style="list-style-type: none"> ● ディフュージョン・インデックス(DI) DIは構成する経済指標のうち、上昇を示している指標の割合が数ヵ月連続して 50%を上回っているときは景気拡大、50%を下回っているときは景気が後退していると判断する材料になる。 	参考
	<ul style="list-style-type: none"> ● 先行指数、一致指数、遅行指数 (例)景気判断と雇用 景気が良くなり始めると企業が雇用を増やすため、「新規求人数」が増えます。それは景気に先行して動くので先行指数。 労働需給の面から、労働市場の好不況は景気にほぼ一致して動くので、「有効求人倍率」は一致指数です。 景気が良くなると収入が増えて消費が活発化し、逆に景気が悪くなると収入が減って消費が減少します。それらを表す「家計消費支出」は、景気に遅行して動くので遅行指数です。 さまざまな動きをする指数全体を見ることで景気が良くなっているのか悪くなっているのかを知ることができる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 寄与度 CI の前月からの変化が、CI を合成する個別系列からどの程度もたらされたのかを示した数値。 	

2. みやぎ経済月報要約宮城県の経済概況（令和6年1月31日公表）

（統計課資料 第1569-10号みやぎ経済月報(2024年1月号) 令和6年1月31日

原文下記参照方

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/toukei/keiki.html>

以下にその要約を示す。

I 本県の経済概況

11月を中心とした宮城県経済の概要

緩やかに持ち直している。

○前回公表分からの変更点は、なし。

(変化方向※)



12月号



1月号

※ 矢印により表現の上方・下方修正を示しています。

絶対的な好況・不況の水準や方向感を示すものではないことに御留意願います。

○前回公表分との比較(下線部は変更箇所)

個別指標	前回公表分 (2023年12月号)	今回公表分 (2024年1月号)	変化方向※
生産	一進一退の動きとなっている。	一進一退の動きとなっている。	→
住宅投資	弱い動きとなっている。	弱い動きとなっている。	→
公共投資	<u>弱めの動きとなっている。</u>	<u>下げ止まりの動きがみられる。</u>	↗
個人消費	緩やかに回復している。	緩やかに回復している。	→
雇用	持ち直しの動きに足踏みがみられる。	持ち直しの動きに足踏みがみられる。	→
企業倒産	増加の傾向が続いている。	増加の傾向が続いている。	→

※ 矢印により表現の上方・下方修正を示しています。

絶対的な好況・不況の水準や方向感を示すものではないことに御留意願います。

Ⅱ.主な指標の動き

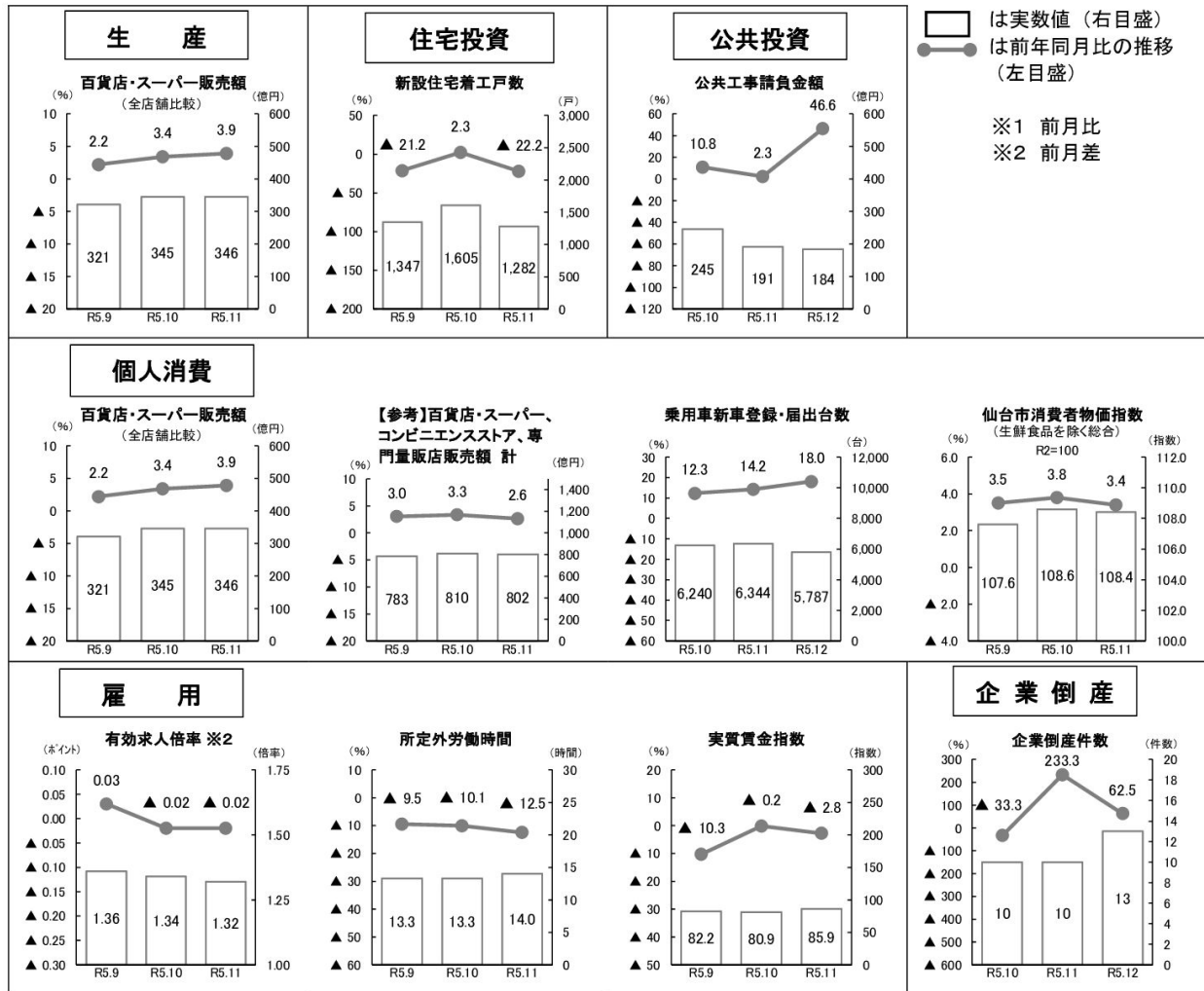
1生産	<ul style="list-style-type: none"> ● 11月の鉱工業生産指数(季節調整値、平成27年=100)は89.7(速報値)で、前月比は4.2%上昇し、2か月ぶりの上昇 ● 業種別 汎用・生産用・業務用機械工業、化学、石油・石炭製品工業など8業種が上昇 パルプ・紙・紙加工品工業、プラスチック製品工業など8業種が低下 印刷業は横ばい ● 前年同月比(原指数)では29.7%低下し、7か月連続の低下 	(資料:県統計課)
2住宅投資	<ul style="list-style-type: none"> ● 新設住宅着工戸数 11月の新設住宅着工戸数は1,282戸で、前年同月比22.2%減少し、2か月ぶりの減少 ● 利用別に前年同月比 持家は17.9%減少し、3か月連続の減少 貸家は25.8%減少し、4か月ぶりの減少 分譲住宅は14.5%減少し、2か月ぶりの減少 	(資料:国土交通省)
3公共投資	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共工事請負金額 12月の公共工事請負金額は183億99百万円で、前年同月比46.6%増加し、4か月連続の増加 ● 発注者別に前年同月比 国は13.6%減少し、5か月ぶりの減少 都道府県は4.5%減少し、4か月ぶりの減少 市町村は92.4%増加し、5か月ぶりの増加 その他※(独立行政法人等、地方公社、その他)は110.9%増加し、5か月ぶりの増加 <p style="text-align: right;">※「その他」は、県が算出</p>	資料:東日本建設業保証(株)
4個人消費	<p>(1)百貨店・スーパー販売額 10月の百貨店・スーパー販売額は345億円 全店舗比較では前年同月比3.4%増加し、11か月連続の増加 既存店比較は3.4%増加し、11か月連続の増加 11月の百貨店・スーパー販売額は346億円 全店舗比較では前年同月比3.9%増加し、12か月連続の増加 既存店比較は3.1%増加し、12か月連続の増加</p> <p>(2)コンビニエンスストア販売額 11月のコンビニエンスストア販売額は197億円で、前年同月比0.1%増加し、21か月連続の増加</p> <p>(3)家電大型専門店販売額 11月の家電大型専門店販売額は59億円で、前年同月比6.8%減少し、6か月ぶりの減少</p> <p>(4)ドラッグストア販売額 11月のドラッグストア販売額は144億円で、前年同月比8.4%増加</p>	<p>資料:経済産業省)</p> <p>(資料:経済産業省)</p> <p>(資料:経済産業省)</p> <p>(資料:経済産業省)</p> <p>(資料:経済産業省)(資料:経済産業省)</p>

	<p>し、32 か月連続の増加</p> <p>(5)ホームセンター販売額 11月のホームセンター販売額は56億円で、前年同月比0.5%増加し、4か月ぶりの増加</p> <p>(6)百貨店・スーパー及びコンビニエンスストア、専門量販店販売額計(参考値※) 11月の百貨店・スーパー及びコンビニエンスストア、専門量販店販売額計(参考値)は802億円で、前年同月比2.6%増加し、21か月連続の増加</p> <p>(7)乗用車新車登録及び届出台数 12月の乗用車新車登録及び届出台数(普通乗用車、小型乗用車、軽乗用自動車の合計)は5,787台で、前年同月比18.0%増加し、12か月連続の増加</p> <p>車種別に前年同月比 普通車は28.7%増加し、12か月連続の増加 小型車は1.8%増加し、2か月ぶりの増加 軽自動車は19.0%増加し、3か月連続の増加</p>	<p>(資料:東北運輸局、全国軽自動車協会連合会)</p>
	<p>(8)物価</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 11月の仙台市消費者物価指数の前月比 <u>生鮮食品を除く総合指数(令和2年=100)</u>は108.4で、前月比0.1%下落し、9か月ぶりの下落 <u>生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数(同)</u>は107.9で、前月比0.1%上昇し、22か月連続の上昇 <u>総合指数(同)</u>は108.8で、前月比0.5%下落し、9か月ぶりの下落 ● 前年同月比 <u>生鮮食品を除く総合指数(同)</u>は3.4%上昇し、29か月連続の上昇 <u>生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数(同)</u>は4.7%上昇し、20か月連続の上昇 <u>総合指数(同)</u>は3.9%上昇し、27か月連続の上昇 	<p>(資料:県統計課)</p>
<p>5.雇用</p>	<p>(1)求人倍率</p> <p><u>10月の有効求人倍率(季節調整値、新規学卒者除きパートタイム含む)</u>は1.34倍で、前月を0.02ポイント下回り、2か月ぶりの低下 新規求人倍率(同)は2.02倍で、前月を0.05ポイント下回り、2か月連続の低下</p> <p><u>11月の有効求人倍率(季節調整値、新規学卒者除きパートタイム含む)</u>は1.32倍で、前月を0.02ポイント下回り、2か月連続の低下 新規求人倍率(同)は2.12倍で、前月を0.10ポイント上回り、3か月ぶりの上昇</p> <p>有効求人数及び新規求人数(原数値、新規学卒者除きパートタイム含む)は、有効は前年同月比3.5%減少し6か月連続の減少 新規は前年同月比7.2%減少し、2か月連続の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新規求人数(原数値・前年同月比)の産業別 「サービス業」、「医療・福祉」、「宿泊業・飲食サービス業」などで増加 	<p>(資料:宮城労働局)</p>

	<p>「卸売業・小売業」、「製造業」、「建設業」などで減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新規求人数(原数値・前年同月比)を産業別 「公務・その他」、「金融業・保険業、不動産業・物品賃貸業」、「サービス業」などで増加 「卸売業・小売業」、「医療・福祉」、「宿泊業・飲食サービス業」などで減少 <p>(2)所定外労働時間 11月の所定外労働時間(製造業、事業所規模 30人以上、1人平均月間)は 14.0 時間で、前年同月比(指数、令和2年=100)が 12.5%減少し、5か月連続の減少</p> <p>(3)実質賃金 11月の実質賃金指数(令和2年=100、現金給与総額、製造業、事業所規模 30人以上)は 85.9 で、前年同月比が 2.8%低下し、4か月連続の低下</p> <p>(4)雇用保険受給者実人員 11月の雇用保険受給者実人員は 8,455 人で、前年同月比 5.9%増加し、7か月連続の増加</p>	<p>(資料:県統計課)</p> <p>(資料:県統計課)</p> <p>(資料:宮城労働局)</p>
6.企業倒産	<ul style="list-style-type: none"> ● 11月の企業倒産(負債総額 1,000 万円以上) 倒産件数は 10 件、前年同月比 233.3%増加し、2か月ぶりの増加 負債総額は 24 億 16 百万円、前年同月比 69.0%減少し、2か月連続の減少 大型倒産(負債総額 10 億円以上)は1件発生 不況型倒産(販売不振、売掛金回収困難、既往のシワ寄せ(赤字累積))件数は9件、全体に占める構成比は 90.0% <p>12月の企業倒産(負債総額 1,000 万円以上) 倒産件数は 13 件で、前年同月比 62.5%増加し、2か月連続の増加 負債総額は9億 78 百万円 で、前年同月比 120.3%増加し、3か月ぶりの増加 大型倒産(負債総額 10 億円以上)は発生なし 不況型倒産(販売不振、売掛金回収困難、既往のシワ寄せ(赤字累積))の件数は 13 件、全体に占める構成比は 100.0%</p>	<p>(資料:(株)東京商工リサーチ)</p>

● 原データ

直近3か月の経済動向（前年同月比の動き）



Ⅲ 宮城県景気動向指数

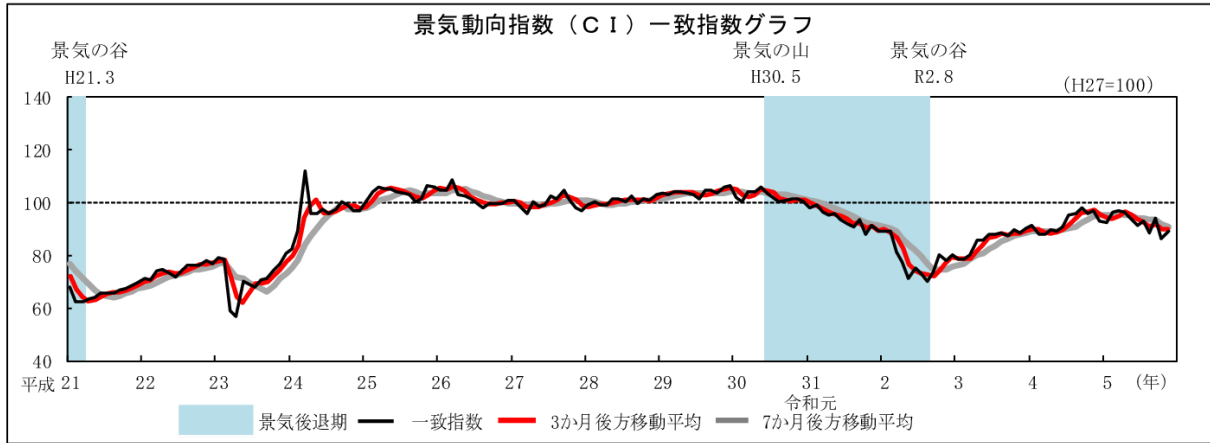
1 景気動向指数（C I）の概況

令和5年11月のC I（H27=100）は、先行指数 116.5、一致指数 89.4、遅行指数 84.9となった。

先行指数は前月と比較して横ばいとなった。

一致指数は前月差で 2.8ポイント上昇し、2か月ぶりの上昇となった。

遅行指数は前月差で 9.4ポイント下降し、2か月ぶりの下降となった。



2 景気動向指数（C I）の個別系列の動き

(H27=100)

		寄与度がプラスとなった指標		寄与度がマイナスとなった指標	
先行 系 列	○ 引き続き上昇に寄与した系列	寄与度		○ 引き続き下降に寄与した系列	寄与度
	○ 上昇への寄与に転じた系列			○ 下降への寄与に転じた系列	
一 致 系 列	○ 引き続き上昇に寄与した系列	寄与度		○ 引き続き下降に寄与した系列	寄与度
	○ 上昇への寄与に転じた系列			○ 下降への寄与に転じた系列	
遅 行 系 列	○ 引き続き上昇に寄与した系列	寄与度		○ 引き続き下降に寄与した系列	寄与度
	○ 上昇への寄与に転じた系列			○ 下降への寄与に転じた系列	

注: [逆] は逆サイクルを示す。逆サイクルとは、指数の上昇、下降が景気の動きと反対になることをいう。

IV 全国・東北等の景況

1 全国の景況

月例経済報告(内閣府) 1月 25 日

<https://www.cao.go.jp/>

景気は、このところ一部に足踏みもみられるが、緩やかに回復している。

- ・個人消費は、持ち直している。
- ・設備投資は、持ち直しに足踏みがみられる。
- ・輸出は、このところ持ち直しの動きに足踏みがみられる。
- ・生産は、持ち直しの兆しがみられる。
- ・企業収益は、総じてみれば改善している。企業の業況判断は、改善している。
- ・雇用情勢は、改善の動きがみられる。
- ・消費者物価は、このところ緩やかに上昇している。

先行きについて・雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。

ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。

また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

さらに、令和6年能登半島地震の経済に与える影響に十分留意する必要がある。

経済・物価情勢の展望 ―展望レポート―

基本的見解(日本銀行) 1月 23 日

<https://www.boj.or.jp/>

わが国の景気は、緩やかに回復している。

海外経済は、回復ペースが鈍化している。

そうした影響を受けつつも、輸出や鉱工業生産は、横ばい圏内の動きとなっている。

企業収益や業況感は改善している。

こうしたもとの、設備投資は緩やかな増加傾向にある。雇用・所得環境は緩やかに改善している。

個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、緩やかな増加を続けている。住宅投資は弱めの動きとなっている。公共投資は横ばい圏内の動きとなっている。

わが国の金融環境は、緩和した状態にある。

物価面では、消費者物価(除く生鮮食品)の前年比をみると、政府の経済対策もあってエネルギー価格の寄与は大きめのマイナスとなっているものの、既往の輸入物価上昇を起点とする価格転嫁の影響が減衰しつつも残るもとの、サービス価格の緩やかな上昇も受けて、足もとは2%台前半となっている。

予想物価上昇率は、緩やかに上昇している。

2 東北の景況

管内(東北6県)の経済動向(東北経済産業局) 1月18日

<https://www.tohoku.meti.go.jp/>

緩やかに持ち直している

- ・鉱工業生産:弱含んでいる(↓)
- ・個人消費:緩やかに改善している
- ・住宅着工:3か月連続で前年同月を下回った
- ・公共投資:4か月連続で前年同月を下回った
- ・設備投資:前年度を上回る見込み
- ・雇用:有効求人倍率は前月と比べ低下
- ・企業倒産:倒産件数は2か月ぶりに前年同月を上回った
(※前月と基調判断に変更がある場合は矢印で上下を示している。)

経済の動き(日本銀行仙台支店) 1月26日

<https://www3.boj.or.jp/sendai>

東北地域の景気は、持ち直している。

最終需要の動向をみると、

- 公共投資は、横ばい圏内の動きとなっている。
- 設備投資は、増加している。
- 個人消費は、回復している。
- 住宅投資は、弱い動きとなっている。
- この間、生産は、持ち直しの動きが足踏みしている。
- 雇用・所得環境は、改善している。
- 消費者物価(除く生鮮食品)は、前年を上回っている。

3 宮城県の景況

県内経済の基調判断(七十七リサーチ&コンサルティング株式会社) 1月9日

<https://www.77rc.co.jp/>

・総括判断

最近の県内景況をみると、一部に弱い動きがみられるものの、全体としては緩やかに持ち直している。

・概況

- 生産は弱含みの動きとなっている。
- 需要面の動きをみると、公共投資は下げ止まりの動きとなっている。
- 住宅投資はこのところ反動などから減少している。
- 個人消費は総じて緩やかに持ち直している。

雇用情勢は持ち直しの動きに足踏みがみられる一方、一部では人手不足による影響が強まっている。

【 用 語 解 説 】

○指数:ある統計データについて、100 又は 1 を基準とした数値で表し、時間的な変化や比率などをわかりやすくしたもの。

(例)りんごの価格の指数を求めてみます。基準年を令和2年とした場合、令和2年のりんごの価格指数は100 となります($R2=100$)。りんごの令和2年の平均価格が 30 円で、今月の価格が 31 円だった場合、今月のりんごの価格の指数は、30 円=100 なので、比例計算で以下のとおり 103.3 となります。

(りんごの価格指数) $31 \text{ 円} \div 30 \text{ 円} \times 100 = 103.3$

○季節調整:経済に関する時系列データについて、真の変動を把握するため、元データから季節による変動分(季節変動※)を取り除くこと。

※ 季節変動(季節性)の例

- ・ 夏にかき氷の販売が増える。
- ・ 冬にストーブの販売が増える。
- ・ 決算対策のため中間決算や決算の時期に生産や販売が増加する。

○前月(期)比:前月(期)からの変化率。

$$\text{前月(期)比} = \frac{\text{当月(期)の値} - \text{前月(期)の値}}{\text{前月(期)の値}}$$

* 足元の動きを見るための目安になります。季節変動のあるデータについては季節調整済の値により比較します。

○前年同月(期)比:前年の同じ月(期)からの変化率。

$$\text{前年同月(期)比} = \frac{\text{当月(期)の値} - \text{前年の同じ月(期)の値}}{\text{前年の同じ月(期)の値}}$$

* 季節変動があるため単純に前月(期)と比較することができないものについては、前年の同じ月(期)と比較することで、季節的な要因を考慮せずに変化の方向性が見やすくなります。ただし、大規模災害など前年に特別な出来事の発生により大きく増減した場合には、その反動により当月(期)も大きく増減するので注意が必要です。

3. まとめ

- 宮城県・全国・東北の景況感の概要を以下にまとめる。

対象	調査部門	記述
宮城県	宮城県	緩やかに持ち直している。
	七十七リサーチ&コンサルティング(株)	最近の県内景況をみると、一部に弱い動きがみられるものの、全体としては緩やかに持ち直している。
全国	内閣府	景気は、このところ一部に足踏みもみられるが、緩やかに回復している。
	日本銀行	わが国の景気は、緩やかに回復している。
東北	東北経済産業局	緩やかに持ち直している。
	日本銀行仙台支店	東北地域の景気は持ち直している。

- 宮城県の個別指標の概要を以下にまとめる。

個別指標	宮城県今回公表分(2024年1月号)	七十七リサーチ&コンサルティング株式会社)1月9日
概要	緩やかに持ち直している。	最近の県内景況をみると、一部に弱い動きがみられるものの、全体としては緩やかに持ち直している。
生産	一進一退の動きとなっている。	弱含みの動きとなっている。
住宅投資	弱い動きとなっている。	このところ反動などから減少している。
公共投資	下げ止まりの動きがみられる。	公共投資は下げ止まりの動きとなっている。
個人消費	緩やかに回復している。	総じて緩やかに持ち直している。
雇用	持ち直しの動きに足踏みがみられる。	持ち直しの動きに足踏みがみられる一方、一部では人手不足による影響が強まっている。
企業倒産	増加の傾向が続いている。	